

平成28年度

府中市地域包括支援センター 業務チェック結果報告

・地域包括支援センター泉苑	……………P2～3
・地域包括支援センターよつや苑	……………P4～5
・地域包括支援センターあさひ苑	……………P6～7
・地域包括支援センター安立園	……………P8～9
・地域包括支援センターしみずがおか	……………P10～11
・地域包括支援センターかたまち	……………P12～13
・地域包括支援センターしんまち	……………P14～15
・地域包括支援センター緑苑	……………P16～17
・地域包括支援センターにしん	……………P18～19
・地域包括支援センターこれまさ	……………P20～21
・地域包括支援センターみなみ町	……………P22～23

地域包括支援センター泉苑

1 基礎情報

(平成28年10月1日現在)

担当地区（町名）	武蔵台・北山町・西原町・日鋼町・東芝町・美好町1～2丁目		
人口	24,571人	高齢者人口	5,898人
自治会数	55団体	老人クラブ数	9団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	5	3	1	1	0	9	0	1	0	1	1	0	1	1

2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

市の北西部に位置し、国分寺市・国立市と隣接している。高齢化率が30%を超える市内1位、2位の町と、最も高齢化率が低い町が共存している。町ごとに地域ニーズや特性が異なるため、細かい地域アセスメントが重要。

武蔵台：1丁目と2・3丁目では立地上高低差があり、双方をつなぐ交通手段もなく、高齢者にとって行き来が困難。都営住宅が多く、特別養護老人ホーム・都立の総合病院もある。国分寺市・国立市が隣接しているため、府中市の活動が浸透しにくい。

北山町：都営住宅が多く、高齢化率は市内で2番目に高い。道路拡張計画により、転出者が増加している。古くからの商店街の店舗は軒並み閉店し、足元の不自由な高齢者にとってコンビニが唯一買い物できる場所となっている。住民の見守りの意識は高く、民生委員・有志を中心に、サロン活動を展開している。

西原町：約40年前から移り住んだ戸建住宅が並ぶが、一部は北山町と同様に道路拡張計画にて転出者が増加。住民自治組織として見守りネットワーク活動を20年余り行っている先駆的地区である。

東芝町：13年前に建てられた巨大高層マンション。高齢者に限らずマンション内でのクラブ活動が盛ん。防災センターと自治会と民生委員が連携し、住民の状況把握に努めている。南側に新たに100世帯弱の分譲マンションが建つも、双方のマンションの交流は今のところない。僅かな戸建群を併せても高齢化率は市内で最も低く、若い世代の町と言える。

日鋼町：築50年となる公団の分譲住宅で、4～5階建てだがエレベーターがない。市内で最も高齢化率が高い町。建て替え問題で賛成反対の意見が交錯しているが、高齢者が多い故に見守りの問題を重要視しており、熱中症予防の見守り訪問を、市の事業とは別に独自で70歳以上の方を対象に展開。その他、サロン活動や朝の体操活動を継続的に行っている。

美好町1～2丁目：分倍河原駅に近い住宅街だが、高齢者が多く住む都営住宅もある。昔からの地主も多いが、2丁目に立ち並んだ新築住宅に移り住んだ若い住民も増加。泉苑との間に広大な東芝工場を挟み分断されていることから、地域包括支援センターの周知度は担当エリアの中で一番低い。

3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成28年10月1日現在)

	常 勤 職 員						非 常 勤 職 員							
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	① 0.8	② 0.625						
資格	社会福祉士	○	◎							○				
	保健師・看護師				◎									
	主任介護支援専門員	◎												
	介護支援専門員	○	○		○	◎	◎			◎				
	介護福祉士	○	○	◎		○	○							
	その他													

4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・二次予防事業対象者のデータを活用しニーズの把握に努めアプローチをしている。
- ・多問題家族や身寄りがない高齢者、認知症や精神科疾患等の困難ケースにチームで取り組み、担当地区ケア会議を利用しながら関係機関との連携を図り対応している。
- ・すべての相談について、権利擁護や高齢者虐待対応の必要なケースかどうかを週1回のミーティングで確認し、職員間で共有している。
- ・二次予防事業対象者のデータを活用した意向調査の結果を今年度の取組に活かし、新たに予防事業につながった方もいた。
- ・医療機関への通院に同行するなどし、医療との顔の見える関係づくり及び資源把握に努めている。介護関係機関とは、ケアマネジャー支援の場であるケアマネ喫茶を毎月開催し、ネットワーク構築に努めている。
- ・毎月ケアマネ喫茶を行っていることで、介護支援専門員（ケアマネジャー）同士が気軽に交流できる場が確保され、困難事例を共有して検討する機会となっている。また、地域の居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーを巻き込んだ実施を検討し、協働・連携に取り組んでいる。
- ・認知症の当事者と家族が参加できる場を提供している。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・成年後見制度や権利擁護事業のレベルアップを図るためにも、過去に受けた職員も定期的に研修に参加できるとよい。
- ・連携が図りにくいと感じている医療機関との連携について、手段を検討し各地域包括支援センターや市と情報共有を図りながら進めていってほしい。
- ・高齢者地域支援連絡会について、地域包括支援センターとして特化した内容での実施を検討しているので、今後の取組に期待したい。
- ・介護予防の講座のあり方や新規参加者の取り込み方法等について検討中であるので、具体化し取り組んでいってほしい。
- ・総合病院が近くにあり在宅療養に関する相談が多いので、引き続きセンター内の連携・情報共有を図るとともに困りごとなどがあれば早期の段階で市へ情報提供をお願いする。

地域包括支援センターよつや苑

1 基礎情報

(平成28年10月1日現在)

担当地区（町名）	四谷・住吉町・分梅町・美好町3丁目		
人口	35,231人	高齢者人口	7,049人
自治会数	28団体	老人クラブ数	11団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	8	7	0	2	0	6	1	1	1	2	1	1	1	1

2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

<p>四 谷：1、2丁目は新旧住宅や農家、借家やアパートが混在し、昔ながらの地域関係が残っている。3丁目は40年程前の宅地整備の分譲住宅が多い地区で高齢化率も高く、子ども世代の一人暮らしや空き家が多くなっている。4～6丁目は農家や市営住宅、また新しい高層の分譲マンションが増えている。府中市の外れにあり、サービスの受け皿が少ない（特に軽度者）地域である。高齢化率20.5%。</p> <p>住吉町：中河原駅を中心にスーパーや銀行など人が集まる場所だが、交通量の多い道路があり、高齢者にとっては利用しにくい場所でもある。平成28年初めに都営住宅の引越が終了。大型マンション群がある。駅を中心に救急受入病院や開業医が多く、医療との連携が取りやすい。高齢化率20.0%。</p> <p>分梅町：都営住宅、市営住宅には高齢者が多い。1丁目の介護予防推進センターは近隣の高齢者が活用しており、つながりの場となっている。自治会の連合会があり、青年会と連携して神社のお祭り等を開催している。分倍河原駅近隣には商業施設があり、活動的な地域である。高齢化率は21.1%。</p> <p>美好町3丁目：旧甲州街道を挟み農家を中心に発展した北西部と、企業の進出により宅地化が進んだ南西部にそれぞれ自治会があり、それに派生して老人クラブが作られた経緯がある。アパートやマンション、戸建て住宅が多く、若い世代が多い。老人クラブの高齢化が進んでいる。高齢化率16.5%。</p>

3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成28年10月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員				
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦					
資格	社会福祉士	○		◎								
	保健師・看護師				◎							
	主任介護支援専門員	◎	◎									
	介護支援専門員	○	○	○		◎	◎	◎				
	介護福祉士	○	○	○				○				
	その他	精					○					

※ 精：精神保健福祉士

4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

・ミーティング等の活用で職員間の密な連携が図れている。朝夕のミーティング、平均週1回程度のミニカンファレンス、月1回のケースの振り返りや事例検討でケースの情報を共有し、地域包括支援センターとしての方針を検討することで相談対応に生かされてきている。

・相談チームからの情報を得て介護予防に誘ったり、介護予防教室を休んだ方に対し介護予防コーディネーターが訪問するなど、センター内で連携した取組ができています。

・連携した継続的な関わりにより、医療機関との顔の見える関係づくりが図れてきている。

・毎月開催のケアマネカフェが定着することで、介護支援専門員（ケアマネジャー）同士の継続的なネットワークが構築され、ケアマネジャーのスキルアップにつながっている。

・ケアマネカフェで居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーから事例プランに対するコメントをもらうなど、連携ができています。今後も地域包括支援センターと居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーの役割分担を行うことで協力関係を深めることで、地域のケアマネジャーへの支援の充実が期待できる。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

・権利擁護に関して、地域権利擁護事業につないだ後も地域包括支援センターが継続的に関わっているケースが多い。地域包括支援センターとしてどこまでやるかケアマネジャーとの役割を考えながら、ケアマネジャーが勉強できる機会としてケアマネカフェを活用していけるとよい。

・二次予防事業対象者のデータを活用し、介護予防教室の前にDMを送付するなど普及に努力しているが、なかなか新規の参加につながっていない。どのようにしたら、新しい方に介護予防の取組を始めてもらえるか、市とともに考えてほしい。

・連携が図りにくいと感じている医療機関との連携について、手段を検討し各地域包括支援センターや市と情報共有を図りながら進めていってほしい。

・これまで若年性認知症に特化して家族介護者懇談会を開催してきたが、今後は若年性認知症だけでなく地域の家族介護者のニーズをとらえた家族介護者支援ができるよう検討が望まれる。

地域包括支援センターあさひ苑

1 基礎情報

(平成28年10月1日現在)

担当地区(町名)	朝日町・多磨町・紅葉丘・白糸台1～3丁目・若松町1丁目		
人口	32,650人	高齢者人口	6,101人
自治会数	16団体	老人クラブ数	7団体

事業者	介護保険	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	生活介護	短期入所療養介護	短期入所型通所介護	認知症対応型通所介護	福祉施設	介護老人保健施設	介護老人用具販売	特定福祉用具貸与	特定福祉
延べ件数	6	7	0	2	0	5	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0

2 地域特性(高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

市の東北部に位置し、小金井市・調布市・三鷹市に隣接。高齢化率は18.7%。市中心部へは自転車、ちゅうバスを利用する方が多い。多磨町・紅葉丘には医療機関がなく、スーパーからは離れていて買い物に不便している地域がある。戸建て住宅が中心で、最近は空き地や農地に新築住宅ができています。

朝日町：戸建て住宅が多く長年住んでいる高齢者に関しては、民生委員が大多数を把握している。大学があることで、ワンルーム形式のアパートが増えた。2つある大規模なオートロックマンションに住む高齢者はあまり把握が進んでいない。グランド跡地の新興住宅地は自治会役員が加入へのアプローチを地道に行っている。地域の夏祭りは自治会が結束し、ボランティアの協力を得て、子供から高齢者まで異世代交流の場となっており、毎年多くの地域住民や学校の教員も集まる。老人クラブは一昨年に解散し、集まる機会がないとの声も出ている。

多磨町：独自の高齢者見守りネットワークを構築していて、1町会でまとまりがある。町会では毎年敬老会を実施し、75歳以上の方たちのほとんどを把握されている。老人クラブは活発に様々な活動に取り組んでいる。地域密着の寺を会場とした「多磨町サロン」は地域住民主体の運営に移行した。一方で、町会や老人クラブに加入しない方が増えている。多磨駅周辺に小さい商店があるのみで買い物が不便。

紅葉丘：1～3丁目の自治会、都営住宅の自治会がある。3丁目町会は、民生委員を中心に月2回の交流サロンを紅葉丘公会堂で行っている。資源回収、運動会の開催、町会だよりの発行、敬老の祝いの会開催等、地域に還元できる仕組み作りをしている。介護保険事業所を利用した子供食堂が平成28年から始まった。高齢者地域支援連絡会の情報交換等で住民が問題意識を持って取り組んだ結果、2丁目町会、1丁目町会でもサロンが定期的に行われている。自治会、老人クラブ、民生委員が連携した取組を継続している。

白糸台1～3丁目：1～3丁目の自治会が継続的に活動している。古くからの住民と比較的新しい住民がいることで高齢化率は低いが、予防的な活動が特に必要とされる。地域が広く民生委員による地域住民の把握が他の地域と比べ進んでいないため、地域包括支援センターで重点的に個別訪問による実態把握やダイレクトメールによる介護予防事業の案内を進めている。

若松町1丁目：高齢化率は低いが、40歳から74歳までの人口比が高い。マンションが多く、近隣との交流が希薄で、実態把握が難しいと自治会からの声もあり、孤立の問題を抱えた世帯の相談ケースが増えていく可能性がある。特に若い世代に対する介護予防啓発等や多世代に渡る見守りネットワークの周知などを強化していく必要がある。

3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成28年10月1日現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員								
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	職員⑧	① 0.2	② 0.8	③ 0.8	④ 0.45	⑤ 0.8	⑥ 0.2	⑦ 0.315	⑧ 0.3	⑨ 0.3
資格	社会福祉士	○	◎	○				◎									
	保健師・看護師				◎												
	主任介護支援専門員	◎		◎													
	介護支援専門員	○	○	○		○		○	◎	◎	◎	◎					
	介護福祉士	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○		
	その他	精		精				精	○	准 看				栄			

※ 精：精神保健福祉士、准看：准看護師、栄：管理栄養士

4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・相談記録システムを活用し、課題を抱えている可能性のある高齢者を抽出するなど、実態把握に向けた取組を積極的に行っている。
- ・調整の核となる機関がないケース（対象者が65歳未満等）を社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターと連携して対応するなど、新たな社会資源を活用できている。
- ・地域の関係団体（老人クラブ、自治会等）とのつながりを意識した取組を展開し、新たに民生委員協議会へ介護予防の周知活動を行っている。
- ・介護予防ケアマネジメントにおいて適切なケアプラン作成を意識し、委託プラン管理の視点も取り入れ、実施している。
- ・圏域内のほぼ9割方の医療機関を訪問し、顔の見える関係を構築するよう努力している。また、主要な病院との連携構築について、ケースと同行し病院の関係者とケースの対応が終了した後も連携が途切れないよう、つながりをつくっている。
- ・圏域内すべての小・中学校において認知症サポーター養成講座開催につながることができた。学校への呼びかけはもとより、地域住民と密に関わることにより、住民からも支援が得られた結果と思われる。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・「近隣住民によるボランティア（応援隊）」の窓口となり、ボランティア活動の全体調整を行っているので、自主グループ、介護予防普及啓発活動等の「担い手づくり」への発展が期待される。
- ・現在、医療関係機関との顔の見える関係の構築に努力しているが、今後、圏域内すべての医療機関の訪問と、「顔の見える関係」からより強化した連携体制の構築ができるよう取組を進めてほしい。
- ・困難事例が発生する前に、地域に見守り・予防の目線を持ってもらうといった観点からも、関わりの薄い自治会とも徐々につながりができるよう取り組んでほしい。
- ・認知症サポーター養成講座の受講が必要と思われる事業者・団体・住民を抽出し、計画立てて出前講座ステップアップ講座を開催するなど、認知症の方への地域の対応力を向上させるような取組を期待する。

地域包括支援センター安立園

1 基礎情報

(平成28年10月1日現在)

担当地区(町名)	晴見町・幸町・府中町・天神町・寿町		
人口	27,951人	高齢者人口	5,964人
自治会数	69団体	老人クラブ数	11団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	11	12	0	4	1	2	0	1	0	2	1	0	1	1

2 地域特性 (高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

晴見町：高齢化率27.7%、自治会19団体、老人クラブ3団体。府中・国分寺間のバス路線があり、高齢者の足になっている。UR賃貸住宅には高齢での転入世帯が多く、地域とのつながりが希薄。古い都営住宅には課題を抱える世帯が多く、孤独死があったこともあり、地域活動が比較的盛ん。防災訓練、夜の見守り活動、ジャズコンサート等の活動により顔の見える関係を築いている自治会、安定的に活動している老人クラブがある。

幸町：高齢化率21.1%、自治会17団体、老人クラブ1団体。東京農工大学と府中公園に挟まれた緑豊かな地域。閑静な戸建てと都営や民間の集合住宅が混在。高齢者のサロンのような八百屋や多世代交流が図れる手づくり喫茶などのインフォーマル資源がある。昨年度に発足した自治会、40年ぶりに敬老会を復活させ絆の引き継ぎを目指す自治会、10月にできた認知症カフェなどがあり、属性や世代を超えた住民主体の地域づくりが始まっている。

府中町：高齢化率15.8%、自治会4団体、老人クラブ2団体。市中心部に近い便利な地域。戸建ての自治会は古く安定的に活動し、子世代との同居も増えている。一方で、駅周辺にはアパート単身世帯も多く、見守りや支援が届き難い。

天神町：高齢化率20.3%、自治会25団体、老人クラブ2団体。ここ数年、大規模マンションが新築され現役世代の転入がある中で、高齢化率は微増を続け高齢者数が確実に増えていることを示している。府中の森公園が近く、散歩や体操などに利用する高齢者が多い。買物・交通に不便な4丁目には戸建ての住民を対象の自治会があり、実態把握や防災・日頃の地域活動等を通して自主的に自治を継続している。

寿町：高齢化率21.7%、自治会4団体、老人クラブ3団体。オートロックの高層マンションも多く管理組合の把握・連携が課題。甲州街道と府中街道で分断されているが、古くからの住民は祭りを通じた地縁をベースに安定的に活動し、障害者施設が盆踊りに参加するなどの横のつながりもある。今年度、地域包括支援センターも関わり住民主体の通いの場ができた。

3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成28年10月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員					
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	① 0. 8	② 0. 8				
資格	社会福祉士	◎		○	◎	◎							
	保健師・看護師		◎						◎				
	主任介護支援専門員			◎					○				
	介護支援専門員	○		○	○	○				○			
	介護福祉士	○			○	○		◎					
	その他			歯			福主						

※ 歯：歯科衛生士、福主：社会福祉主事

4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・担当者に固執せず、ケースの状況に応じて誰が対応するのが最適かを検討して柔軟に対応している。そのために日頃からシステムへの迅速な記録の入力及び回覧を行い、緊急通報システムや訪問食事業の利用者本人の行動パターンや家族の情報等も職員間で共有し、連携しやすい環境づくりに努めている。
- ・地域リハビリテーション活動支援事業「元気高齢者モデル」に参加するなど、積極的に新しい事業に取り組み、現状をよりよくするための課題発見の意識も高く、着実に活動の幅を広げている。
- ・個々の職員の専門性を生かした支援が効果的に行われている。職員同士での意見交換がされていることで、その結果、支援が安定している。
- ・地域包括支援センター全体としてだけでなく、個人としての質の向上を図るべく、自主的に研修等に参加しており、積極性と向上心が強く感じられる。
- ・ケアマネジャーが気軽に相談したり、情報収集ができる場「さんもく喫茶」が継続的に開催されていることで、地域のケアマネジャーにとってのネットワーク構築や息抜きの場となり、ケアマネジャー支援へと繋がっている。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・個人情報管理について職員の認識にばらつきがあるように感じられる。職員の認識を統一するとともに、管理体制の強化に努めてほしい。
- ・介護予防事業の対象者の把握と介護予防プログラム参加への勧誘について、介護予防教室の参加者にリピーターが多い現状がある。来年度より総合事業を開始するので、住民が自発的に介護予防に取り組む地域の醸成を目指してほしい。
- ・連携医による講演や「さんもく喫茶」を毎月開催するなど積極的に関係機関との連携強化を継続するとともに、今後は一部の機関との交流にとどまらないよう連携機関の拡充も必要である。
- ・地域の主任ケアマネジャーを巻き込んだ事例検討会やケアマネサロンの運営などが行われると、地域のネットワークが更に構築されて厚みのあるものになっていくと思われる。

地域包括支援センターしみずがおか

1 基礎情報

(平成28年10月1日現在)

担当地区（町名）	八幡町、押立町、清水が丘、白糸台4～6丁目		
人口	28,892人	高齢者人口	6,481人
自治会数	32団体	老人クラブ数	11団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	7	4	0	0	0	2	2	1	1	1	1	1	1	1

2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

八幡町：府中駅から東府中駅の南側に位置し、競馬場が近いいため開催日は来場者による交通渋滞がある。旧甲州街道沿いはオートロックマンションが多く、見守りが難しい地域である。利便性が高く、高齢者の単身世帯が多い。日吉体育館、公会堂を活用した高齢者の活動が盛ん。

押立町：市の東南、調布市との市境に位置する。市中心地から遠いために調布市方面へ出て買い物や通院をする方も多し。介護保険サービスについても調布市の事業所を利用する方が少なくない。築30年以上の団地や戸建て住宅があり、高齢者世帯、単身者が増えてきているが、住民の高齢化のほか、高齢者の転入が多くなっていることも要因として挙げられる。団地やマンションの集会場を活用したサロン活動が行われており、高齢化に対しての住民意識が高い。押立体育館や押立文化センターなどの市の施設も活用されている。

清水が丘：東西は東府中駅から多磨霊園駅まで、北は品川街道、南はしみず下通りまでの地域。1～3丁目まで、各丁目ごとに自治会と老人クラブ、公会堂がある。1丁目では地域住民主体のサロン活動、2丁目では自宅を開放した認知症のサロン活動が行われている。高齢者の単身世帯、高齢者のみ世帯が多い。

白糸台4～6丁目：武蔵野台駅北側から調布市境までの地域。自治会の構成が地域包括支援センターあさひ苑のエリアとまたがるため、高齢者地域支援連絡会はあさひ苑と合同開催している。自治会同士のつながりが強く、自治会の活動が活発である。

3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成28年10月1日現在)

	常 勤 職 員					非 常 勤 職 員					
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	① 1. 0	② 0. 8				
資格	社会福祉士	○		◎				○			
	保健師・看護師		◎								
	主任介護支援専門員	◎									
	介護支援専門員	○	○		◎	◎		◎	◎		
	介護福祉士				○			○			
	その他					栄					

※ 主：主任介護支援専門員、栄：管理栄養士

4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・地域への地域包括支援センターの周知活動を継続的に行っており、今後、地域の協力店舗にも改めて挨拶回りを行う構想をしているなど、堅実な土台作りに着手している。
- ・課題となっていた介護予防教室の新規参加者の開拓について、途上ではあるものの、既存の参加者へ教室について広めてもらうよう働きかけることで、新規参加者を増やしている。
- ・在宅療養相談窓口業務の紹介について、「しみずがおか便り」に掲載し配布するほか、家族介護者教室でも紹介するなど、周知に取り組んでいる。
- ・ケアマネジャー支援での勉強会において、インフォーマルサービスをテーマにあげて取り組むなど、テーマ選定に熟慮し開催している。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・相談ケースの振り返りのタイミングを明確化するとともに、虐待に関する市民の情報提供から事実確認や市への通報までの流れについて再度センター内で確認してほしい。
- ・介護予防の取り組み方が変わっても、介護予防について知り、興味を持ってもらうことの重要性は変わらないため、教室や講座の新規参加者の開拓について、引き続き多様な手段で取り組んでもらいたい。
- ・医療機関とのネットワーク構築のため、圏域内の医療機関への挨拶のための訪問などの計画を立てているが取り組めていない現状がある。在宅療養相談窓口として医療関係機関との連携は不可欠であるので、前向きに進めてほしい。
- ・個別ケースの検討や地域での会議において、課題の抽出に苦慮している様子がうかがえる。課題の抽出にあたっては、職員の問題意識も重要となることから、職員が意識して対応してもらいたい。
- ・成年後見制度や地域福祉権利擁護事業などを含む様々な研修に各職員が積極的に参加できるようにセンター内で調整できると、個々の職員がスキルアップをすることで地域包括支援センター全体の強化につながると思われる。

地域包括支援センターかたまち

1 基礎情報

(平成28年10月1日現在)

担当地区(町名)	片町・宮西町・宮町・本町・矢崎町・日吉町		
人口	22,742人	高齢者人口	4,229人
自治会数	47団体	老人クラブ数	13団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	7	11	1	2	0	1	1	0	1	0	0	1	2	1

2 地域特性 (高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

片町：分倍河原駅周辺や旧甲州街道沿いの商業エリアとそれ以外の住宅地域からなり、戸建て住宅が比較的多い。交通の便が非常に良い。自治会は丁目ごとにまとまっており、祭り行事や防災訓練を合同で行うなど昔からの地縁は強いが、転入してきた住民は比較的地域との関わりが薄い。老人クラブの活動は活発である。片町文化センターがあり、周辺住民の地域交流の拠点となっている。

宮西町：市中心部に位置し、南部に一部戸建て住宅地域を残すが、大部分が商業地域かマンションである。高齢化率は低い一方で、単身高齢者世帯は多い。新しくマンションができることが多く、特にオートロックマンションなどの高齢者の把握は進んでいない。戸建てを中心とした自治会で、マンションの住民と繋がりを持てるよう働きかけているところもある。

宮町：府中駅の南、市中心部に位置し、生活利便性は高い。北部の1、2丁目は大型商業施設と大型マンションが建ち並び、南部の3丁目は戸建て住宅群で自治会を中心にまとまっている。高齢化率は低い一方で、単身高齢者世帯は多い。総じて老人クラブの活動も活発であるが、後継者がなく解散したところもある。

本町：東西に長く、おおむね丁目ごとの自治会でまとまっているが、比較的新しい住宅群では、細かく区切られた数十世帯の自治会もあり、孤立しがちな高齢者が潜在的に含まれている。大きい自治会では住民相互の繋がりも強い。老人クラブは3、4丁目にはあるが、1、2丁目は解散し存在しない。

矢崎町：市南部に位置し、サントリーの工場で南北に分断されている住宅地域。交通の便は良くない。商業施設は少なく、医療機関はない。老人クラブも都営住宅に1つあるだけで、地域の高齢者が集まれるような機会が少ない。

日吉町：競馬場。人は住んでいない。

3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成28年10月1日現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	職員⑧	① 0. 8				
資格	社会福祉士	○	◎					◎	◎				
	保健師・看護師			◎									
	主任介護支援専門員	◎				◎							
	介護支援専門員	○				○	◎	○	○				
	介護福祉士	○			◎		○		○				
	その他	精				○				○			

※ 精：精神保健福祉士

4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・相談ケースの情報共有について、徹底した取組ができています。相談があった場合、口頭での報告、システムへの記録の入力、日誌の印刷、朝夕のミーティング等で内容を共有し共通認識・共通理解を図っている。その後の経過についても、相談受付票により月1回の確認をしている。
- ・ケアプラン作成について、予防プラン担当者の打合せを月1回開催することでケースの共有と検討の場をつくり、プランナー全体のレベルアップへ繋がっている。
- ・介護予防に関する地域の活動の把握を意識して行っている。
- ・地域へ積極的に働きかけ、地域包括支援センターのPRを行うなど、ネットワークづくりに取り組んでいる。
- ・自治会をはじめとする地域の関係機関へ「高齢者おたすけマップ」を配布することで関係構築のきっかけとし、見守りネットワークの強化へつなげている。
- ・地域への働きかけや個別ケースの対応など、職員全体で取り組む姿勢ができています。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・相談対応の振り返りができていないので、振り返りのタイミングや方法についての検討が必要とされる。
- ・高齢者がいる家族へのアプローチに困難さを感じているので、高齢者以外に提供できる障害者や子育てに関する情報の習得や関係機関との連携強化に取り組んでほしい。
- ・虐待対応の終結をどう考えるかを市と共有し管理できるようにすることが課題である。
- ・自主グループや介護予防の普及啓発活動等の担い手づくりについて、地域で「介護予防」の活動が継続できるように取組を深めてほしい。
- ・ある程度の地域資源と連携が図れているがニーズは多様化してきているので、資源の拡充を図るべく新たに医療機関や介護機関などとの連携を期待する。
- ・個別ケースの検討や地域との会議において抽出された課題の整理を行い、高齢者支援に繋げる取組を期待する。

地域包括支援センターしんまち

1 基礎情報

(平成28年10月1日現在)

担当地区(町名)	新町・栄町		
人口	14,875人	高齢者人口	4,141人
自治会数	76団体	老人クラブ数	8団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	2	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0

2 地域特性 (高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

新町・栄町は市内の北に位置し、小金井市・国分寺市と隣接している。東西に横長のエリアであり、公共交通機関は南北のバスはあるが、東西の移動には不便を感じる地域である。地域包括支援センターは東に位置するため、栄町在住の方には不便さがある。また、地域に公共の施設が少なく、新町文化センターと栄町体育館の2施設以外は、都営住宅の集会所等の小規模な施設しかない。地域包括支援センターが催しを行う場合も、地域の方が自主的に集う場合も、適切な場所がなく大きな課題となっている。

新町・栄町は市内でも高齢化率の高い地域であり、年々上がっている(新町26.6%、栄町30.2%、エリア全域27.8%)。また、高齢者世帯の1/4が単身世帯となっている。古くからの都営住宅(新町5か所、栄町7か所)・市営住宅(新町2か所、栄町1か所)が多く、各地域での高齢化も深刻になっている。高齢者の多い一部の自治会では、見守りをどのようにしたらよいか課題となっており模索している。

地域の老人クラブ・婦人会等の見守り活動のほか、自治会、自主グループのサロン活動が動き始めている。

新町・栄町は以前から介護保険事業所が少ない。市内全域の事業所と協力関係を築くことが重要となっている。

3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成28年10月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員			
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	①	②	③	④
資格								①			
		5									
社会福祉士	◎	○		◎							
保健師・看護師			◎								
主任介護支援専門員		◎									
介護支援専門員	○	○		○	◎	◎					
介護福祉士				○	○	○	◎	◎			
その他		歯									

※ 歯：歯科衛生士

4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

・相談業務をセンター職員全体で、少ない時間の中でやり繰りして協力して対応している。
 ・地域の集まり（サロンなど）の情報を地域住民から得た場合には、積極的に地域に出かけて行き、介護予防の啓発などのアプローチに取り組んでいる。
 ・在宅療養相談窓口担当者とセンター長が医療機関（医科・歯科・薬局）へ挨拶に出向き、顔の見える関係の構築に努めている。また、ケアマネジャー向けの勉強会においても、ALS・人工呼吸器等の連続したテーマを持って開催している。
 ・高齢者地域支援連絡会を幅広い地域の関係者の参加による地域ケア会議として開催している。関係者間のお互いの理解を深めることで地域の意識啓発に努めている。
 ・参加者が取り組みやすいように地域ケア会議で使用するシートを工夫するなど、回を重ねるごとに改善を試みる姿勢が見られる。
 ・家族介護者教室についてテーマに副題を付けるなど、広く参加者を集めるよう工夫をしている。教室形式のほか、介護者の交流会を定期的に2か月に1回開催し、充実した介護者支援を行えている。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

・虐待の未然防止を含めた、ケアマネジャー学習会のより一層の有効活用と地域住民の集まりでの啓発にも期待する。
 ・来年度より総合事業を開始するので、住民が自発的に介護予防に取り組む地域の醸成を目指してほしい。
 ・病院で説明を受けている内容と、本人家族の認識に大きなズレが生じている場合があり、その場合は混乱も大きくなってしまう。そうした支援にあたる中で、市民が在宅療養に関わる前に在宅療養について知ることができる啓発の必要性を感じており、ぜひその課題に向けて取り組んでいってほしい。
 ・高齢化率の上昇、高齢者のみ世帯が増加している一方で、地域住民が主体的に地域の高齢者を見守っていく気運が高まらないと感じている。地域住民の意識啓発を課題としてとらえている。

地域包括支援センター緑苑

1 基礎情報

(平成28年10月1日現在)

担当地区(町名)	緑町・浅間町・若松町2～5丁目		
人口	23,831人	高齢者人口	4,207人
自治会数	32団体	老人クラブ数	4団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	0	2	1	0	0	3	1	1	0	0	1	1	0	0

2 地域特性 (高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性)

担当エリアに、都営住宅1か所、市営住宅1か所、高齢者専用住宅やすらぎ2か所を抱えている。市内で最も高齢化率が低い。若松町は、特に40歳から64歳の人口が多い特徴が見られる。

緑町：八幡町から移り住んだ方や新しく住宅を購入した方が住んでいる。市の中心部に位置し、所得の高い方が多い。主たる自治会は4団体、老人クラブは1団体、婦人会は1団体である。高層マンションが増加し、人口が多くなる傾向にある。高齢者のみでなく、児童も増加傾向にあり、府中第二小学校は市内でも児童数が多く、浅間中学校では青少年対策委員会が活発に活動している。府中の森公園では自主的にシニア世代の方々が健康のため、個人やグループで様々な活動を行っている。

浅間町：市中心部から離れていることもあり、昔から自治会・老人クラブ・婦人会が相互に連携し、協力体制の下で地域づくりに取り組んでいる。特に浅間山を抱える地域として山に関する事での人間関係が強く根付いている。また、各自治会が新しく建つ住宅に対して自治会への勧誘を必ず行い、積極的に声を掛けるなど、地域のまとまりを常に考えている。浅間町の自治会を中心に防災組織も形成されている。商工会は、地域の方々が参加できるハロウィン祭りをを行い、高齢者から子供まで幅広い世代を対象に活動を展開し、顔の見える関係づくりを進めている。

若松町2～5丁目：介護老人保健施設や有料老人ホームがある。昔からの居住者、地主も多い反面、賃貸アパートで生活する新しい住民も多い。関わりが難しい部分もあると思われるが、自治会を中心に季節ごとのカレーパーティーや芋煮会等の行事で熱心に地域づくりを進めている。高齢者地域支援連絡会等での情報提供や協議により、今年度より若松町3・4丁目自治会が見守り活動に向けた動きを取り始めている。

3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成28年10月1日現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤 職 員				
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	職員⑧	① 0. 3	② 0. 6	③ 0. 5	④ 0. 4	⑤ 0. 4
資格	社会福祉士	◎					◎		◎				
	保健師・看護師			◎									
	主任介護支援専門員				◎			○					
	介護支援専門員	○	◎		○	○	○	○	○	◎			
	介護福祉士	○	○		○	◎	○	○	◎	○	○		
	その他							○					

4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・地域のキーパーソンとなりうる方との連携の強化に取り組んでいる。以前から、民生委員からの連絡・相談はあったが、今年度は自治会とも高齢者地域支援連絡会を経て繋がりを深めていくよう努力している。
- ・従来の介護予防教室や講座について、介護予防に係る活動の担い手づくりの「種まき」の段階と捉え、将来的に担い手となりえる参加者に個別に声をかけている。目的を明確に持って取り組んでいる。
- ・経験のある医療職を中心に医療機関との連携に取り組み、医療機関の情報等に関しては、資料をファイリングして内部での情報共有に努めている。
- ・小・中学校と関係性を深め、新たに認知症サポーター養成講座を実施する学校を増やすことができている。
- ・家族介護者教室の開催以外に、地域交流スペースでの昼食会を活用してご家族の話を伺うなど、柔軟な介護者支援に取り組んでいる。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・相談ケースの振り返りのタイミングを明確化し、終結となるまではコンスタントに振り返ることで、取りこぼしのないフォローを目指してほしい。
- ・新たな担い手づくりだけでなく、既にある活動の存続についても問題意識を持っている。既存グループは高齢化により存続が危ぶまれるケースが多いため、次世代を育てる取組を具体化してもらいたい。
- ・毎月の医療との連携事例報告の提出について、多忙な業務のため優先順位が低くなる傾向にある。定期的な提出に努めてほしい。
- ・高齢者地域支援連絡会に参加している自治会に比して、不参加の自治会からの通報・相談が少ないという現状がある。やむを得ない事情で参加が難しい自治会とは、別のツールを使うなどして関係を深めるとともに、該当地域の情報把握に取り組んでほしい。
- ・権利擁護は市民にとってイメージしづらい部分がある。高齢者地域支援連絡会で事例を交えての説明・意見交換をすることで、啓発、周知、協力の要請もできると思うので、検討してほしい。

地域包括支援センターにしふ

1 基礎情報

(平成28年10月1日現在)

担当地区（町名）	西府町・本宿町・日新町		
人口	16,917人	高齢者人口	3,295人
自治会数	12団体	老人クラブ数	5団体

事業者	介護保険	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	生活介護	短期入所療養介護	短期入所型通所介護	認知症対応型通所介護	福祉施設	介護老人保健施設	介護老人用具販売	特定福祉用具貸与	特定福祉
延べ件数	5	1	1	2	3	5	1	2	0	1	4	0	0	0	0	1	1

2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

<地区概要>

担当エリアの高齢化率は19.5%である。西府町・本宿町は、南北に走る鎌倉街道と東西に走る甲州街道により、5地区・6地区の日常生活圏域に分かれる。西府町と日新町は、国立市との市境に面している。かつては農業を中心に営んでおり、田畑が多く存在していたが、近年は宅地や事業用地の開発が進んでいる。日新町には、日本電気（NEC）の府中営業所があり、2万人規模の従業員が勤めている。本宿町北部には東芝事業所があり、本宿3・4丁目には東芝関係者が多く住んでいる。比較的元気で社交的な高齢者が多くいる一方で、老人クラブや自治会と疎遠で家に引きこもる人もいる。また、マンションやアパートを経営する裕福な高齢者もいる反面、家賃の安い集合住宅に住む世帯もあり、所得格差が大きい。

大国魂神社の「くらやみ祭」や熊野神社の例大祭の氏子を軸とした地縁が深い。西府町・本宿町・日新町すべてが西府文化センター圏域のコミュニティ協議会に属し、文化センターまつりや高齢者向けの輪投げ、ペタンク、グランドゴルフ等の競技会が行われている。

<交通や買い物、医療機関などの環境について>

西府町、本宿町は甲州街道、鎌倉街道、南武線線路、日新町はハケ（崖稜線）と高速道路高架により分割されている。

公共交通機関として市内を南西に横切るJR南武線の西府駅がある。駅の北口周辺は開発途中の段階である。甲州街道を通るバスは一時間に1本、駅ロータリーを経由する公共バスの乗り入れが少ない。ちゅうバスは本宿町の北側に一部通るだけで不便との声を聞くことが多い。日新町地区は、市内へのバス便が通っていない地区があり、バス便のある多摩市の桜ヶ丘に出る人が多い。移動用にマイカーを所有している世帯が多く、80歳を超える高齢ドライバーも多い。

平成28年2月に西府駅前にはスーパーマーケットが開店し、食品、日用品のスーパーとして甲州街道以南の地区の買い物環境が改善された。しかし、飲食店が少なく、ホームセンター・衣料品店・靴屋等がエリア内になく、不便な面は残る。

医療機関については、内科が2か所、整形が1か所、歯科が2か所と少ない。

<地域包括ケアに関わる事>

担当エリア内の自治会は12団体、老人クラブは5団体あり、自治会、老人クラブともに地域包括支援センターとのやり取りは良好である。老人クラブは約450名の高齢者が入会し、誕生会やカラオケ、部会の活動等を行っている。老人クラブは会員の高齢者を対象とした友愛訪問活動をしている。そこから介護保険の申請について相談依頼を受けることがある。他に、NPO法人が空き家を使い、高齢者や子育て世代が集まれるサロンを運営。西府町3丁目自治会では、平成27年から地域サロンを立ち上げて活動を行っている。

3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成28年10月1日現在)

	常 勤 職 員						非 常 勤 職 員				
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	① 0. 8	② 0. 8	③ 0. 3	④ 0. 3	
資格	社会福祉士	○	◎	○					○		
	保健師・看護師				◎						
	主任介護支援専門員	○		◎							
	介護支援専門員	○	○	○				◎			
	介護福祉士	○		○			◎		◎		
	その他		精			○	○		○	○	

※ 精：精神保健福祉士

4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・相談対応したケースについて、情報共有、対応の検討、進捗状況の確認を朝のミーティングを活用し定期的に行っている。
- ・自治会の定例会に出席し地域包括支援センターのPRや介護保険制度の説明をすることで相談窓口として認識してもらっている。
- ・二次予防事業対象者のデータを活用し、返信費用を受取人払いにしてDMを出すことで、新規の参加者につなげる工夫ができています。
- ・医療機関等に広報紙「にしふ新聞」を配布し、地域包括支援センターの機能や活動の周知に努めている。
- ・多職種連携の一環として、看護学校の実習生を受け入れ、学びの場を提供し、人材育成にも努めている。
- ・認知症サポーター「ささえ隊」のステップアップ講座を自治会と連携して実施したり、若い世代への認知症サポーター「ささえ隊」養成講座を継続して実施するなど、地域で支える基盤づくりによく取り組んでいる。
- ・家族介護者サロンを実施する中でニーズを捉え、参加者にフィードバックし、手厚い運営がされている。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・虐待や消費者被害についての啓発を介護予防教室などで呼びかけているが、詐欺被害に遭う人もいるため、今後も啓発方法を工夫しながら継続的に続けてほしい。
- ・ある一定の地域資源と連携が図れているが、ニーズも多様化しているため、資源の拡充を図るべく、新たに医療機関や介護機関などとの連携を期待する。
- ・地域全体のケアマネジメントの質の向上とケアマネジャーへの支援を目的として、居宅支援事業所の主任ケアマネジャーを巻き込んだケアマネサロンの実施など、連携・協働を図ってほしい。
- ・介護予防の普及について、広報紙では届かない層へのアプローチを検討している。具体的な取組につながることを期待する。

地域包括支援センターこれまさ

1 基礎情報

(平成28年10月1日現在)

担当地区（町名）	是政・小柳町		
人口	22,152人	高齢者人口	4,755人
自治会数	15団体	老人クラブ数	9団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	3	3	0	3	0	6	0	0	0	1	0	0	0	0

2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

是政、小柳町は東西が多摩川沿いに伸び、南は中央高速をまたぎ崖線下までと、比較的低位に属する地域である。歴史的に洪水に悩まされていた集落のため地域の古老から川の流れが変わると村全体が移ることもあったと聞く。

是政地区は水害に対し村民が結束して乗り越えてきた歴史があるため、依然として村意識が残り50年住んでもまだ新参者と言われる風土である。地域包括支援センターとして6年近く関わってきたが介入の難しさは依然として残る。一方で、大型マンションやアパートが多いのも特徴で若い層の流入により、高齢化率は20%前後で経過している。

小柳町は水田の後を40～50年前に住宅地として開発し住み始めた人が中心である。高齢化率が23.7%と是政に比べ高い。住民の自治意識が強く、各自治会が連携して五町会を結成し、毎年交代で防災や防犯、交通等の啓発活動に取り組んでいる。地域包括支援センターも参加し、認知症の理解や対応等の周知啓発活動を行っている。福祉への関心が高く、介護予防事業への参加、介護予防の自主グループ活動が活発である。自治会や老人クラブ、民生委員が住民と地域包括支援センターとのパイプ役になり相談支援に繋がるケースも多い。

こうした積み重ねから3か所の住民主体の交流サロン「こやなぎサロン」「コミュニティカフェこれまさ」「ポピーの会」は4年目を迎え継続している。小中学校では認知症サポーター養成講座の開催が実現し、これをきっかけに地域清掃への参加等、青少年対策委員会との交流もある。

一方、居宅支援や訪問介護等の介護保険関係の事業所は少ない。医療面では入院の出来る病院は1か所、クリニックは8か所、中央線を利用し沿線の病院を利用する人も多い。生活資源の商店街はまばらでスーパーは1軒だけ、コンビニエンスストアは増加傾向のため身近な店舗として高齢者もコンビニをよく利用している。認知症高齢者がコンビニでトラブルを起こすことがあり地域全体での対応も望まれる。さらに地形的に多摩川が近いこと水害の予測を含めた防災課題も挙げられる。

安心、安全な生活の原点を構築するため住民同士が日頃から助け合う意識を醸成し、顔の見えるご近所同士の関係がサロン活動や介護予防の取組から広がることを期待できる。

3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成28年10月1日現在)

	常 勤 職 員								非 常 勤		
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	職員⑧			
資格	社会福祉士	◎									
	保健師・看護師			◎							
	主任介護支援専門員				◎						
	介護支援専門員	◎	○		○	◎	◎	◎			
	介護福祉士	○				○	○	○	◎		
	その他	○			○						

4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・担当以外の職員でも対応できるよう、ケース記録を可及的速やかに入力し、回覧することで職員間の迅速な情報共有に努めている。
- ・一部の職員が参加した研修に関して、資料を回覧するだけではなく、定例ミーティングの際に内容を報告する機会を設け、他の職員も共有できるように工夫している。
- ・各種相談のなかに予防事業の視点も入れこみ、総合的な支援につながるよう意識し、地区特性を把握した上で出来る限りの介入を続け、地域住民との関係構築を図っている。
- ・予防プランについて、ケアマネジャー支援の場である「これまさ広場」や定例のケースミーティング等で情報共有やスキルアップに努めている。
- ・地域資源の情報等について、センター内で共有資料を整理・作成し、待ったなしの対応が求められる際にも直ぐに応じられるよう努めている。
- ・今年度、社会福祉士も在宅医療コーディネーター研修に参加し、在宅療養相談窓口としての体制整備に取り組んでいる。
- ・高齢者地域支援連絡会、家族介護者教室などでの参加者アンケートのほか、地域住民や利用者とのコミュニケーションからも地域住民のニーズや課題の把握し、講座等の内容に反映させている。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・二次予防事業対象者データを分析、活用することで、さらに新しい層へのアプローチに繋がるきっかけになることを期待する。
- ・支援者個人が把握している地域資源（フォーマル、インフォーマル）を他の支援者とも共有できるような工夫を期待する。
- ・在宅療養相談窓口の周知に関して、地域包括支援センターとして課題と感じている。市としても更に周知が必要と考えているところでもあるので、協力して取り組んでいくことを期待する。
- ・古くからの住民が多く閉鎖的な地域との関係において、継続的な体制の構築を以前からの課題とし、地道な取組を続けることで徐々に成果を見せている。残る自治会についてもその成果が出ることを期待する。

地域包括支援センターみなみ町

1 基礎情報

(平成28年10月1日現在)

担当地区（町名）	南町		
人口	9, 146人	高齢者人口	2, 497人
自治会数	9団体	老人クラブ数	4団体

介護保険事業者	居宅介護支援	訪問介護	訪問入浴介護	訪問看護	訪問リハビリ	通所介護	通所リハビリ	短期入所生活介護	短期入所療養介護	認知症対応型通所介護	介護老人福祉施設	介護老人保健施設	特定福祉用具販売	特定福祉用具貸与
延べ件数	2	2	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0	1	1

2 地域特性（高齢者に係るフォーマル、インフォーマルの地域特性）

市の南側に位置し、人口は9, 146人、高齢者人口は2, 497人、高齢化率は27.3%。平成28年1月より都営住宅の建て替えの為、転居してきた方が多く、人口、高齢者人口ともに増加している。

町内の北側は一般の戸建て住宅が多く、南側には公営集合住宅がある。

地域内に小学校、交番、浄水場、消防団、職業訓練校、障害者福祉センター等の資源がある。

町内には、医療機関が3か所ある。内科、整形外科、外科、皮膚科、小児科の診療を行う。

介護保険事業所は複数あり、特別養護老人ホーム、居宅支援事業所、通所介護、訪問介護、福祉用具等である。

近隣の市立公園から続く遊歩道があり、地域の住民の散歩道になっている。

地域内の道路は狭い道路が多く、公共交通機関が通る道路も少ない。住民は徒歩や自転車、市内循環バス等を使い継いで、買い物や市役所まで行く。

町内に公会堂2か所、集会所5か所等があり、自治会の集まり、住民の集まり等に使用されている。町内に文化センターがなく、高齢者が集まる場所が少ない。

3 職員内訳

資格:主なものに◎、それ以外は○ ※非常勤は、常勤換算で何人分かを記入 (平成28年10月1日現在)

	常 勤 職 員							非 常 勤 職 員			
	職員①	職員②	職員③	職員④	職員⑤	職員⑥	職員⑦	① 0. 8			
資格	社会福祉士	◎		○	◎	◎					
	保健師・看護師			○							
	主任介護支援専門員				◎						
	介護支援専門員	○			○		○				
	介護福祉士	○					○	○			
	その他										

4 ヒアリング結果

◎ よく取り組んでいる点・前年度から改善された点など

- ・多忙な業務の中でセンター内の会議を開催し、相談記録の入力もスピーディに行うことで、職員間や市の福祉相談係との情報共有の質を高めている。
- ・虐待ケース対応についても通報の段階から初期対応を迅速に行い、虐待に至らないまでの段階で関係機関が介入できているケースもある。
- ・介護予防の新規参加者の獲得に向けて教室や講座の周知を積極的に行い、参加者の増加につなげている。とりわけ、サービス担当者会議等での提案は、サービス以外にも多様な支援があることを示唆できる良い機会となっている。
- ・圏域内に医療機関が少ないこともあり、圏域の医療機関のほかにも地区住民がよく利用する圏域外の医療機関とより良い関係が保てるように努めている。
- ・ケアマネジャー支援のためのサロン運営の中で医療職・介護職を招いた講話・情報交換を行い、医療介護の連携構築を図っている。
- ・介護者支援については、「介護者の集い」の定例開催を開始するとともに、講座形式の家族介護者教室も継続して実施している。介護に必要な知識などの実質的な面に対する支援と精神的な面の支援の双方を行っており高く評価できる。

◎ 改善が必要な点・今後の課題・期待する取組など

- ・虐待について、初動から対応中の情報共有はよく取り組んでいるが、振り返る機会作りと虐待終結までの期間に市の福祉相談係へのフィードバックを積極的に行うことでケース対応の精度を向上させてほしい。
- ・介護予防に係る活動の担い手づくりについて、教室や講座に慣れてきた参加者に対し、参加するだけではない介護予防の可能性について理解を促し、自発的な活動へつなげるような取組を期待する。
- ・医療機関や介護事業所等の地域資源の情報について、人事異動等で職員の入れ替わりがあった際にもセンター内で共有できる体制を整える必要がある。
- ・ケース対応についてコアになっている職員が検討・会議を進めている状況があるので、個々の職員のケース対応力をレベルアップさせることでセンター全体の強化につなげてほしい